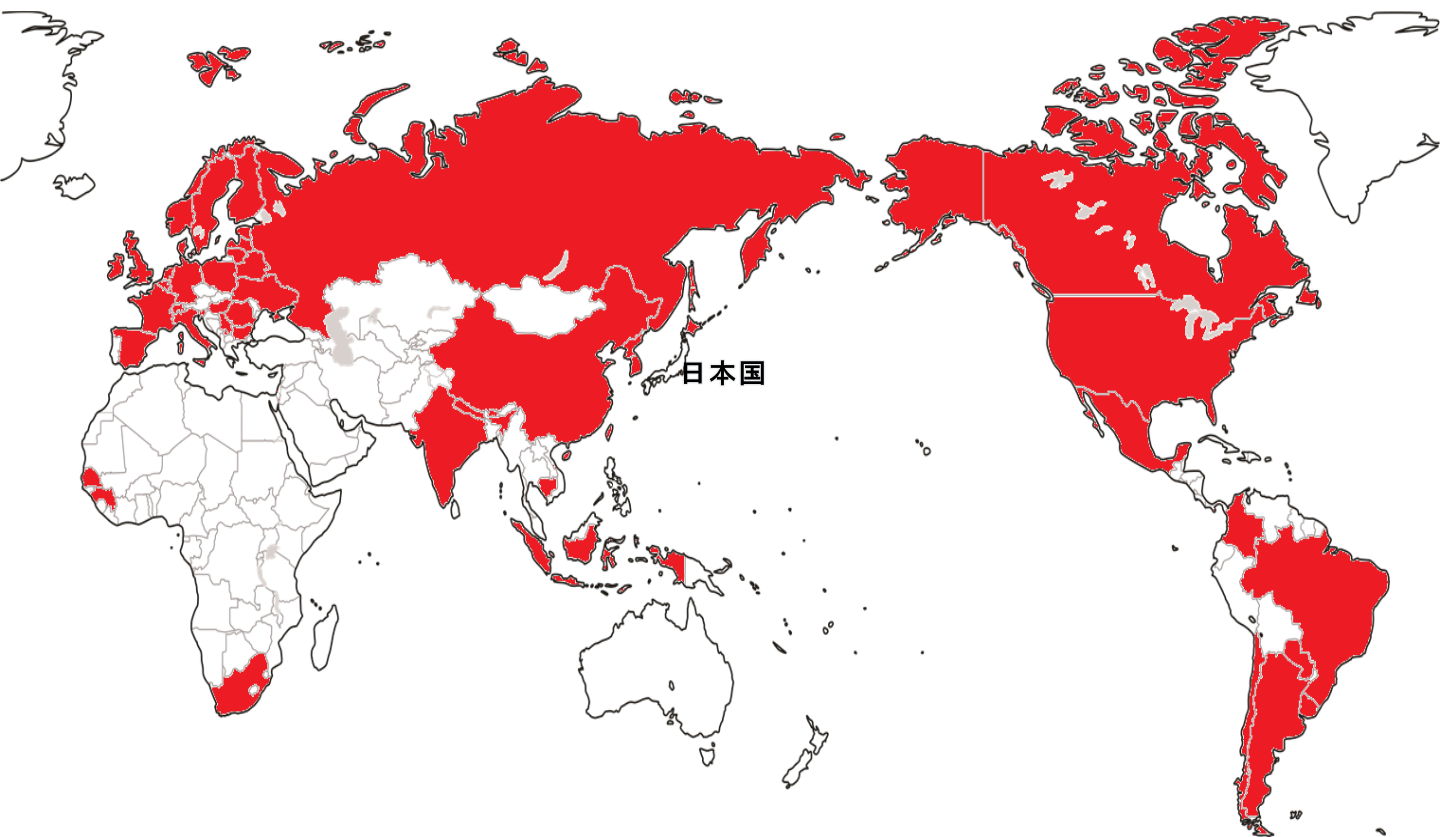


渡り鳥の北帰行以降の鳥インフルエンザの情勢

- ◆昨秋、日本国内に渡ってきたカモ、ハクチョウなどの渡り鳥がこの春、北帰行によりそれぞれの繁殖地などに戻った地域で現在、H5N1亜型を中心とした高病原性鳥インフルエンザが継続して発生しています。
- ◆これまで高病原性鳥インフルエンザの発生が無かったブラジル、チリ、アルゼンチンなど南米諸国にも発生地域の拡大が進んでいます。
- ◆一部の地域(南米、欧州、韓国)ではアシカなどの海獣、キツネ、ネコなど哺乳類での鳥インフルエンザの感染が確認され始めています。

2023年3月～8月現在の高病原性鳥インフルエンザ等の発生地域



- ◆ 現在、シベリア、アラスカなど北帰行先での高病原性鳥インフルエンザ情勢が今秋の日本国内に反映する可能性が高いと予想されます。7月末には北海道にほど近いサハリン島(南樺太)で高病原性鳥インフルエンザによる海鳥の大量死が確認されました。
- ◆ 情勢の把握と今シーズンに向けた対策と備えに努めてください。